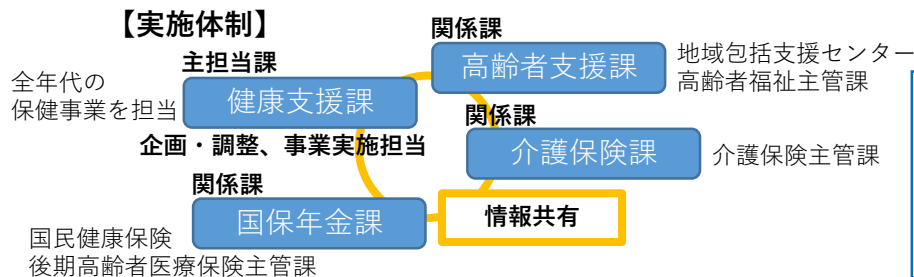


千葉県習志野市

- ハイリスクアプローチの取組区分を5つ（低栄養、その他の生活習慣病等重症化予防・慢性腎不全、その他の生活習慣病等重症化予防・高血圧、健康状態不明者対策、認知症）実施。
- 国保加入者を対象に実施している保健事業のノウハウを高齢者の保健事業で活かしつつ、その他新規の取組を展開することで、多角的なアプローチを実現。

【概況】 令和3年3月31日時点

人	口
高 齢 化 率	175,301人
後 期 被 保 険 者 数	23.4%
日 常 生 活 圏 域 数	21,128人
	5圏域



【人員体制】 健康支援課

一体的実施担当保健師（職員1名、会計年度任用職員1名）
一体的実施担当管理栄養士（会計年度任用職員1名）
地区担当保健師（職員5名※現在コロナ対応のため1名減）
地区担当管理栄養士（職員3名）
地区担当歯科衛生士（職員2名）

【取組経緯】

- ・年齢による切れ目のない保健活動の展開を図るため、令和2年度より高齢者保健事業と一般介護予防事業の一部を高齢者支援課から、妊婦乳幼児～成人の保健事業を担当する健康支援課へ、事務分掌移管された。その見直しに伴い、一体的実施の担当課や実施内容等を健康支援課と高齢者支援課で検討し、健康支援課で実施することが決定された。
- ・健康状態不明者へのハイリスクアプローチについては、訪問開始前に、地域包括支援センターへ本事業について説明し協力を依頼。また、高齢者支援課へ福祉サービス等の利用の有無について照会し、その他過去のレセプト、世帯の状況等情報を収集した上で訪問。

【企画・調整等】

- KDBの活用
- ・健診の結果の経年分析により、
 - ・75歳以上被保険者数は平成29年と比べ令和元年は108.7%に増加しているのに対して、低栄養該当者は114.7%の増加である
 - ・平成29年度低栄養で令和元年度に重症化（要介護の新規認定・重症化・死亡）する割合は平成29年度正常数値の人と比べ、2.3倍である。
 - ・平成29年から令和元年の血圧分類Ⅲ度（診察時180/110㎜Hg）のリスク比はそれ以外の血圧分類の被保険者と比べて約1.5倍である
- ということが判明した。以上の結果から、健康課題として、
- ・低栄養による重症化リスクの回避
 - ・高血圧が要因の脳血管疾患等発症の抑制を設定。加えて、国保・慢性腎不全予防健康相談対象者の継続支援と、健康状態不明者と質問票認知項目該当者も介入対象者とした

【抽出条件】

- 低栄養予防：令和3年度健診受診者のうち①75歳～84歳②アルブミン値3.9以下かつBMI21.5未満の両方に該当。高齢者支援課へ配食安否確認サービス利用者を照会し、該当者は除外。
- その他の生活習慣病等重症化予防（高血圧）：令和3年度健診受診者のうち①75歳～84歳②Ⅱ度高血圧以上（160/100㎜Hg）③健診問診項目に高血圧・糖尿病・脂質等に係る内服がない
- その他の生活習慣病等重症化予防（慢性腎不全予防）：国保・慢性腎不全予防健康相談実施者の後期高齢者以降の継続者
- 健康状態不明者：①75歳～84歳②令和1・2年度の2年間健診未受診かつ医療レセプトなし。要支援介護認定者かつサービス利用のある者等第三者の介入がある者は除く
- 認知機能低下①75歳～84歳①質問票「周りの人から『いつも同じことを聞く』などの物忘れがあると言われる」と「今日が何月何日かわからない時がありますか」該当者。問診項目に「収入のある就労」の有無を追加し該当しているものは除く。

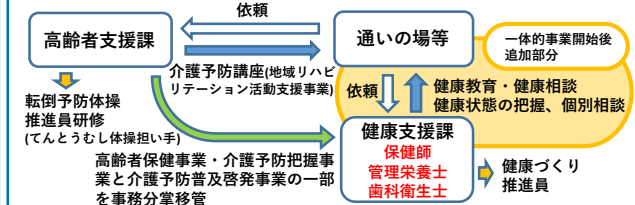
【指導内容】

- 低栄養予防：高リスクで重症化し今後も対象者の増加が見込まれるため、より予防的な介入を行うため対象者を拡大した。そのため対象者の状況に応じて、小集団・個別指導等手法を変え実施する。
- その他の生活習慣病等重症化予防（高血圧）：医療受診勧奨、家庭血圧の確認・測定の勧奨を行う。2回目までは電話にてアプローチ、電話が2回繋がらなかった場合は訪問する。
- その他の生活習慣病等重症化予防（慢性腎不全予防）：腎不全予防に関する生活習慣が定着しているかモニタリングを行う。
- 健康状態不明者：経済・社会的な課題について必要な情報やサービス、関係機関へ支援者がつなぐ。
- 認知機能低下：各事業の中で認知症の診断を受けながらも未受診の事例があり、認知機能の衰への自覚がある者に対して状況把握と認知症予防や相談窓口を周知している。

【ハイリスクアプローチ】

【ポピュレーションアプローチ】

○通いの場等への積極的関与



- ・地域のサークル、町会、老人クラブや習志野市社会福祉協議会支部のふれあい・いきいきサロン、公民館の寿学級などの通いの場において、健康教育や健康相談を実施。質問票や体力測定等により健康状態の把握を行う。必要な者に対して個別相談を行い、低栄養やオーラルフレイル、筋低下等フレイル予防について保健指導を実施する。
- ・「生涯を通じた歯と口の健康」「生涯を通じた健康的な食生活」「生涯を通じた健康づくり」をテーマにしたまちづくり出前講座を活用し、地域支援事業と連携して実施している。
- ・既存市民ボランティアによる波及効果をねらい、健康づくり推進員に対するフレイル・低栄養予防について研修を実施。

○課題、今後の展望

庁内連携の強化：健康状態不明者について、訪問や関係機関への照会等でも把握できない対象者が存在するため、把握方法の手段や他部門との連携等方法を多岐に広げ、より把握できる手段を検討する必要がある。

行動変容を促すアプローチの展開：対象者は長く蓄積された経験のもと判断しているため、健診受診等の行動変容につながるには難しい。対象者がよりよい選択につながるよう、継続的な支援や目標の変更等検討する必要がある。

訪問時の連絡方法等の工夫：現在習志野市においては、電話はつながりにくいが、対面の訪問は受け入れられやすい傾向がある。しかしながら、それも10年ほどで世代が変わると変化する可能性が高いので、今のうちから介入方法の工夫を検討する必要がある。